概　要　報　告

実施期日	令和７年８月４日(月)
部　会　名	中学校　特別の教科　道徳部会

研究主題

カリキュラム・マネジメントによる学校教育の改善・充実

テーマ

『道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の実践』

提案概要

研究実践校は、「１小・１中」の地域にある学校で、児童生徒たちは９年間ほとんど環境が変わらない中で生活している。校風は穏やかで、生徒同士はお互いを尊重しながら生活できているように見られる。

このことを踏まえ、長所と短所をそれぞれ挙げてみると長所としては、穏やかで与えられた課題にまじめに取り組むことができる。そして幸福感が高いというところが挙げられる。一方、短所として現状に満足してしまうことがある。

道徳的価値について理解しているように思われる一方で、道徳的価値の「理解・深化・定着」さらに「実践意欲と態度の育成」に課題があるように見えた。課題が見られた具体的な場面として、体育祭のスローガン決めの時に複数出た意見を「尊重」しようとしてすべての意見の「良いと思う語句だけ」を取り出し、一つ一つのスローガンにまとめようとするところや「自分勝手な言動をする生徒」に対しても「あの子はそういう子だからしかたない」と個性を尊重しようという受け止め方をする場面である。これらの場面では果たして本当に「ベスト」なのか「尊重」という受け止め方をより深めることができているのかという課題があった。そこで以下の３分野についてできることを検討した。

①　各教科における道徳教育（学習内容・学習活動）
②　生徒会活動とのリンク
③　学校行事とのリンク

このうちの「②生徒会活動とのリンク」について実践を行った。

１　生徒会の目指す『楽校（がっこう)』
・みんなが楽しいと感じられる学校
・いじめのない学校
　→表面的にこのような言葉を使うのではなく「意味」「具体」を考えるためにひたすら話し合いと勉強会を行い自分たちでの授業を行う企画を出す。

２　いじめを許さない学校づくり
・2023年の授業テーマが「多様性・共存」
・2024年の授業テーマが「いじり」
　→生徒会執行部の生徒が各教室を訪れて自分たちが考えた授業を行った。

３　授業で考えたことを実践する
・ピンクシャツ運動
・ボッチャ大会
・シッティングバレー大会
　→クラスの枠を取り払い、縦割りを作り行った。それぞれの縦割りの中でルールを作り実行した。

以上の実践の中で、教員→生徒ではなく生徒⇔生徒の関わりを作ることができた。それぞれの縦割りグループの活動では、リードが苦手な３年生、活発な１・２年生もいるということで「学年」ではなく「個性」を活かす動きや相手のよいところを見つける活動が行われていた。

５　生徒の変容

・「みんなで楽しむ」ために自分たちのルールを作る動き
・苦手な相手とどう接するか考える動き
・それぞれのベストを尽くす方法や貢献の仕方を考える動き
・ボランティア活動で有志たちがピンクグッズを手作りする動き
・特別の教科道徳の振り返りからも、道徳的価値の深まり

協議の柱及び協議概要

「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育」を、どのように意識し取り組んでいますか？

〈意見〉

・さらに拡大して小学校と中学校の交流ができたらいいのではないか
・子どもたちは普段の生活から道徳的な価値を見出す活動が苦手だと感じる。だからこそ特別活動の中で道徳的な視点をもつことは大切
・学校全体を巻き込むもの、子どもたちの活動につながりやすい話題が見つかるとよい。
・中１で行う平和学習を中３での広島修学旅行につなげている。３年間を見据えた活動が道徳的価値観に結び付くのではないか
・学級通信など授業以外でも道徳的な芯をもって子どもに向き合い伝えていく方法もあるのではないか。

まとめ概要

本提案では「道徳」を特別の教科道徳の中での授業だけではなく学校全体を通した取組み、特に特別活動からアプローチしたということに大きな意義があり、提案性としても高いといえる。協議では道徳の授業だけにとらわれず「学校教育全体を通した道徳教育への取組みについて積極的な協議が行われていた。提案資料の別添に卒業生代表の言葉があり、その中では、学校全体の取組みが生徒の心の成長に大きく影響を与えた内容が書かれていた。道徳教育は当該のクラスや学年全体で行われていくことが大切であることは周知のことだが、学校全体を巻き込み、教員も生徒も同じ方向を向いて目的に向かって活動することで、生徒には教室の中だけでは体験できない貴重な機会になることが本提案の実践を通して明らかになった。

道徳教育は特定の教員が行うものではなく、すべての教員が同じ方向性を向いてできると、より良い学校の道徳教育が推し進められるのでないかと考える機会となった。